

決勝に進んだ32人の選手たち。今年はアメリカやカナダ、デンマーク、台湾など14の国と地域から参加があった。



けん玉一つで 国境は越える――

発祥の地で世界とつながる

世界的なけん玉ブームの中、昨年初めて開催されたけん玉ワールドカップ。今年の来場者数は、2日間で約5万人。昨年より1万2千人も多い結果となり、けん玉人気の高まりが証明された。

予選を突破した選手たちはステージ上で洗練された技の数々を披露した。3分間で成功させた技の合計点を競う。難易度の高い技が繰り出されるとそれに合わせるように割れんばかりの歓声が鳴り響いた。

1970年代の最盛期には、全国のけん玉生産数のトップを占めていたけん玉発祥の地廿日市。優勝者のワイアット・プレイさんは「アメリカから10時間かけてこの地を訪れることは、私にとってとても意味のあること。ここに来れば世界中の選手とつながりが持てる」と話す。

取材の中見られたのは、世代や国籍も関係無く、けん玉一つで会話を楽しむ姿やけん玉の技を教え合う姿。コッ、コッと心地よい木の音が会場のあちこちからで響き続ける2日間となった。



1_決勝進出者32人が持ち時間3分の中、ステージ上で華麗な技を披露。2・4_大会参加選手は238人。100ある技の中から5つの技に挑戦。これを2回行い、その合計点を競った。「昨日の敵は今日の友」、同じ組となった人と話し合う姿、終了後には互いの健闘をたたえ合う姿が見られた。3_優勝はけん玉歴3年のワイアット・プレイさん(21歳・アメリカ、オレゴン州)。得点は2位と14点差の775点。5_地元選手の登場に湧きおこる歓声。プレイヤーたちが難易度の高い技を成功させると惜しみない拍手が送られた。



けん玉旋風の再来



地元の力

誰もが楽しめるけん玉を



日本人最高位の6位に輝いた地元廿日市の久保田悟さん(18歳・原)。



9_廿日市駅通り商店街では16日に海外選手と地域との交流会、18日にはけん玉まつりを開催。地域で海外選手をもてなした。10_今年4月に誕生したけん玉女子のパフォーマンス。



WOOD ONE Kendama World Cup Hatsukaichi 2015

「けん玉発祥の地」廿日市で今年も開催されたけん玉ワールドカップ。7月18・19日の2日間に渡り、国内外から集まった238人のけん玉プレイヤーたちが技を繰り広げた。2日間での来場者は約5万人と大盛況のうちに幕を閉じたこの大会をカメラが追った。